

# 平成12年第18回教育委員会記録

平成12年9月27日(水)

杉並区教育委員会

## 教育委員会記録

日 時 平成12年9月27日(水) 午前9時00分～午前9時43分  
場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 舟 生 清 委員長 大 門 哲  
職務代理者 丸 田 頼 一  
委員 鬼 丸 かおる 委 員 丸 田 頼 一

欠席委員 (なし)

出席説明員 教育長 與 川 幸 男 事務局参事 辻 武  
庶務課長 佐 藤 博 継 施設課長 秋 葉 正 行  
学務課長 和 田 義 広 事務局副参事 田 中 哲  
指導室長 工 藤 豊 太 中央図書館長 古 川 正 司  
社会教育  
センター課長 荒 井 健 一 中央図書館  
センター所長 伊 藤 俊 雄 次 長 杉 田 治  
事務局職員 庶務課係長 木 下 淳 法規主査 能 任 敏 幸  
担当書記 後 藤 行 雄

傍聴者数 1 名

### 会議に付した事件

#### 教育委員長職務代理者の選任について

議案第77号 杉並区立図書館協議会委員の委嘱について

- 報告案件
- 1 杉並区行財政改革懇談会の提言について
  - 2 第三回区議会定例会の一般質問について
  - 3 平成12年度研究奨励校発表会の日程について
  - 4 ブックスタート事業の試行について

**委員長** ただいまから平成12年度第18回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。本日の議事録署名委員は、鬼丸委員にお願いいたします。第1議案、「教育委員長職務代理者の選任について」を上程いたします。現在委員長職務代理者をお務めいただいている大門委員の職務代理者の任期が満了いたします。このため委員長職務代理者の選任をしなければなりませんので、議題といたします。

選任の方法ですが、会議規則第6条の規程により、投票または指名推薦の方法がございますが、いかがいたしましょうか。鬼丸委員どうぞ。

**鬼丸委員** 指名推薦がよろしいと思います。

**委員長** 指名推薦の方法にてとのご意見でございますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

**委員長** 異議ないということでございますので、指名推薦によることといたします。それではご指名をお願いいたします。鬼丸委員どうぞ。

**鬼丸委員** よろしいでしょうか。大門委員に再びお願いしたいと思います。

**委員長** はい、ただいま大門委員の指名がございましたが、ほかにございませんか。

(「なし」の声)

ないようでございますので、大門委員が委員長職務代理者に就任することで異議ありませんか。

(「異議なし」の声)

**委員長** 異議がございませんので、大門委員に本日より平成13年9月26日までの1年間、委員長職務代理者をお願いいたします。以上で委員長職務代理者の選任を終了いたします。大門委員長職務代理者のご挨拶をいただきます。

**大門職務代理者** 余計なことを言うことが多いので、もう少し静かな所に移ったほうがいいのかもしいろいなと思っておりましたが、やらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

**委員長** 決してそんなことはございませんので、よろしくお願いいたします。それでは日程の1を終わりにして、日程第2、議案第77号「杉並区立図書館協議会委員の委嘱について」。説明をお願いいたします。

**中央図書館次長** それでは提案理由から説明させていただきます。まず図書館協議会の委員の任期が今年9月末日をもって任期満了となりますので、今回提案

するものでございます。任期は2年でございます。定員は10名でございます。  
それでは議案を朗読させていただきます。

「議案第77号、杉並区立図書館協議会委員の委嘱について、右の議案を提出する。平成12年9月27日。提出者、杉並区教育委員会教育長與川幸男。

次の者を杉並区立図書館協議会委員に委嘱する。平成12年10月1日付。規則第3条第1号該当、東京都武蔵村山市本町2丁目、原田美智子。規則第3条第1号該当、東京都杉並区高井戸東1丁目、渡辺和子。規則第3条第2号該当、東京都杉並区大宮1丁目、市川早苗。規則第3条第2号該当、東京都杉並区荻窪4丁目、大塚誠一。規則第3条第2号該当、東京都杉並区今川4丁目、小林牧子。規則第3条第3号該当、東京都杉並区成田東4丁目、大場裕洪。規則第3条第4号該当、東京都練馬区旭丘1丁目、佐藤政孝。規則第3条第4号該当、東京都国分寺市並木町2丁目、畠山忠治郎。規則第3条第4号該当、東京都杉並区阿佐谷北3丁目、西内ミナミ。規則第3条第4号該当、東京都杉並区高井戸東3丁目、糸賀雅児。

提案理由、任期満了に伴い新たに委嘱する必要がある。」

次の頁に図書館協議会の名簿が入っております。上から4人目まで、原田さん、渡辺さん、市川さん、大塚さんにつきましては、今回新規の委嘱になります。1人飛びまして大場裕洪さんも新規で、5人が今回の新規の委嘱になります。あとの方は、引続きということになります。その後ろに履歴書が付いております。これは参考にご覧いただければと思います。以上でございます。

**委員長** ありがとうございます。何かご質問等ございますか。

(「なし」の声)

よろしいですか。ではお認めいただいたことといたします。

次に報告案件に移らせていただきます。第1は、「杉並区行財政改革懇談会の提言について」、2番、「第3回区議会定例会の一般質問について」、以上庶務課長お願いいたします。

**庶務課長** それでは私から2点についてご報告させていただきます。まず第1点目、行財政改革懇談会からの提言ということで、これはすでにお配りしてご覧いただいているかと思いますが、昨年12月に懇談会が設置され、今年9月に区長に提言されたものです。毎年区としてもそれぞれ行革に取り組んでおり、現在も本部会を設置しております。教育委員会関連についてもいくつか課題に載っ

ております。これらについては次回の教育委員会の中で教育委員会に関するものの現時点での考え方をご報告させていただきたいと考えています。これについては以上です。

いま委員長にも出席いただいております本会議第3回定例会の関係でございますが、資料として本日お出ししてございますが、本会議答弁一覧ということで、まとめてございます。これは一般質問の関係で教育委員会に関わる部分、それらを取りまとめてございます。教育委員会に関しましては、6人の議員からご質問がございまして、大きく分けて5点の質問項目になっております。1点目が、高井戸第二小学校のプール事故に関する教育委員会の見解、対応、そういったところを主とした質問でございます。

2つ目には、障害児教育に関する課題の捉え方についての質問。3点目が、現在大宮中で生ごみの炭化処理というものを試行しております。それらについての現状と今後の進め方についてのご質問でございます。4点目が、「子どもと読書」というテーマになるかと思いますが、学校図書館の関係、学校での図書の活用の関係。今回中央図書館からもご報告いたしますが、ブックスタートという事業についてのご質問が主でございます。

5点目としては、行革関連ということで、給食の委託化についての中間のまとめというものが取りまとめてございますので、これらについての考え方、これからの進め方についてのご質問ということでした。それらを質問要旨と答弁要旨ということで一覧にしたものでございます。私からは以上です。

**委員長** はい、非常によくまとめていただいて、お話をされましたのでよくわかりだと思えますが、質問も聞いていろいろありまして、区長さんに「区長さんは幼いときにどんな本を読まれましたか」という質問も出ておりました。こういうことですが、何かございますか。今回の質問で特に教育長、教育委員会として心していかなければというような印象の深いものは何かございましたか。

**教育長** そうですね、今回やはり共産党の原口議員が高井戸第二小学校の水の事故ということで、かなり詳細にわたって質問がございましたので、その件については私からも冒頭に答弁をさせていただき、深くご本人ならびにご家族の方にお詫びをするとともに、皆さまにご心配をかけましたということを入力しながら、学校の監視体制の不備が複合的に重なったということを明確に答弁せ

ざるを得ないと言いますか、答弁したというのが今回特に強調されるべきことなのかなという感じでございます。あとは大体従来から問われていることかと思えます。敢えて言えば、大宮中学校の給食残飯の処理について、堆肥化などということはよくございますが、今回は炭化処理ということで炭状のものにして、それをさまざまなものに加工できる、再利用ができるということで、それがユニークかなと思えます。あとは「子ども読書年」が今年であるということで、それに関連してブックスタートという乳幼児期からの絵本なり、本を親御さんが読み聞かせるというような、そういう種類の新しい事業を始めるということあたりが特徴的かと思えます。あとは大体従前から問われていることを再度また問うということで、特に行政改革関連で問うということがいろいろあったかと思えます。

**委員長** ありがとうございます。特にご質問はございませんか。

(「なし」の声)

それでは1、2については以上で終わりますが、いま庶務課長から話がありましたように、今日は後ほど学校訪問という予定もございまして、詳しくこの提言を説明することはできないということで、またの機会に折々これについて話があるということでございますので、ご了解いただきたいと思えます。

3番、「平成12年度研究奨励校発表会の日程について」。指導室長お願いします。

**指導室長** 以前に研究奨励校の発表につきましては、ご報告申し上げておるところでございましたが、発表期日が確定しておりませんでしたので、今回は正式に発表日が決定したものをご提示いたしました。

いま各幼稚園、小学校、中学校等、健康学園も含めて6校が今年度発表ということで、研究等にもだいぶ推進がかかってきたということで、それぞれの学校の発表を期待しているところでございます。各教育委員の先生方におかれましても、お時間等でございますが、おいでいただいて、元気付けたり、またご指導いただければ大変ありがたいと指導室では思っております。私からは以上でございます。

**教育長** それに関連して、日付が書いてあるのはありがたいのですが、委員の先生方にもご出席いただくということになりますと時間がわかれば、ここで時間をお教えいただければと思えます。後ほどでも結構でございますが。

**指導室長** はい、わかりました。委員会が終わりましたらすぐお示しいたします。申しわけございません。

**教育長** はい。

**委員長** この中でやはり4番の南伊豆健康学園の発表会でございますが、よその学校と形態が違いますので、泊を伴う参加ということになるかと思っておりますので、教育委員の先生方にもいろいろご用、健康状態もございませうから、これもどのようになるのか。やはり一晩泊る覚悟で行くようにするのか。発表のたびにバスを仕立てて各学校からの参加者も一緒に行ったような記憶がありますが、何か具体的に。

**指導室長** まだそこまでの情報がありませんので、早急にその情報を確認いたしまして、お知らせしたいと思っております。またほかの所管との連絡、調整にもあたりたいと思っております。

**委員長** 時期的に我々にも南伊豆健康学園の父母の方から、いろいろな電話が入ったり、私的な時間をだいぶさういうことで費やされたり、本が送られてきたりしていますので、関心も高い時期でございませうから、抜かりなくその辺はお願いしたいと思っております。

室長は初めてのご経験ですが、我々も極力参加することに努力をしておりますが、やはり仕事などで参加できないことについては、ご了承いただきたいと思っております。

**指導室長** はい、かしこまりました。

**委員長** それではこの件につきましては、よろしいでしょうか。時間については後ほどということで、南伊豆の参加の仕方についてもまた別な方法になるかと思っておりますが、よろしく願いいたします。

4番、「ブックスタート事業の試行について」。中央図書館次長、お願いいたします。

**中央図書館次長** はい、それでは私から説明させていただきます。ブックスタート事業の試行についてですが、このことをパイロット・スタディという呼び方をしております。これは「子ども読書年」推進会議で付けた名称のようです。先ほど教育長からお話があったのですが、初めにブックスタートというあまりなじみがない言葉ですので、ブックスタートから説明させていただきます。別添資料が付いておりますが、ざっと概要を説明をさせていただきます。

ブックスタートとは、1992年に英国のバーミンガムで始まり、英国全土の90%の地域まで普及した運動でございます。絵本を直接手渡すことで、赤ちゃん和本の出会いを作る運動でございます。つまり本を通して、赤ちゃんと一緒に楽しい時間を分かち合うことを応援するものでございます。

内容といたしましては、保健所で実施されております乳幼児検診の参加者に赤ちゃん絵本や、アドバイス集、地域の図書館や保健センター、児童館など公共サービスに関する情報などが入りましたブックスタート・パックをお渡しし、そこで図書館員や保健婦が子どもと本の時間を持つ楽しさ、子どもの発育における本の時間の大切さについてお話をいたします。そして地域の中で乳幼児向けのお話し会や遊び会を開催いたしまして、子どもが成長に応じて、より多くの絵本と出会うことが出来、保護者が地域の中で楽しく子育てが出来る環境を整えるフォローアップ体制を作っていくという運動でございます。

それでは初めに戻りまして、パイロット・スタディ、杉並区でのこの事業の試行について説明させていただきます。初めに運営主体及び費用負担でございますが、これは「子ども読書年」推進会議ですべて行います。運営主体及び費用もすべて「子ども読書年」推進会議で賄うことになっております。目的でございますが、2点ございます。1点目が、英国で始まったブックスタートをまず日本の社会に合った形で展開していくに当たりまして、具体的なパックの内容とか、地域の中での連携推進体制作りの検討をするということが、1つの目的でございます。2点目が、ブックスタートがどのような効果を及ぼすかについて、調査をすることでございます。具体的にはブックスタートの効果の研究とか、現在の保護者の読み聞かせ観、読み聞かせ行動に関する基礎データの収集などがございます。

次に実施の内容です。保健所の乳幼児健診の際、現在4カ月健診を予定しておりますが、その際にブックスタート・パックを約300家庭に配付いたしまして、無配付家庭というのでも300家庭とりまして、その違いを調査、研究するということとなります。期間といたしまして、第1回目が平成12年11月から12月。2回目が来年5月から6月となっております。場所は各保健センターで、方法については先ほどブックスタートの所でもお話しましたが、現在のところ4カ月健診の会場へ図書館の職員が出向きまして、保健婦とともに赤ちゃん和本のひとときを持つ大切さなどを説明して、協力を求めると。具体的にはこう



いう形になっております。

先ほども少し説明いたしましたが、ブックスタート・パック、これを約 300 家庭を対象に配付いたします。配付しない家庭につきましても協力を求めまして、アンケート調査を依頼するという形になります。これは「子ども読書年」推進会議が行うのですが、その後 1 歳、2 歳、3 歳時点で約 200 から 300 家庭に対しまして、アンケート調査を行うという試行でございます。以上でございます。

**委員長** これは図書館事業としても、家庭に入り込む初めての事業のようでございますので、十分検討されたことだろうと思います。まだ時間もありますので、何かございましたらひとつお願いします。

**教育長** パイロット・スタディというのはあくまでも試行研究という意味ですから、これはサブタイトルではないのです。サブタイトルは、「シェア・ブックス・ヴィズ・ユア・ベイビー (Share books with your baby.)」。それがサブタイトルです。パイロット・スタディというのはあくまでもパイロット校と同じですから、単なる試行研究という意味ですからね。

**中央図書館次長** そうだと思います。パイロット・スタディという名称で推進会議が呼んでいるということで、その名称を使っているということです。

**教育長** パイロット・スタディは中身を表現していません。いろいろな事業もパイロット・スタディはいっぱいあるわけです。例えば杉並区のパソコン、インターネットのパイロット校などというのをやっています。それと同じような意味ですから、パイロット校だけでは、あるいはパイロット研究だけでは中身は見えないです。だからサブタイトルは、「子どもと一緒に本を分かち合おう」ということではないですか。

**鬼丸委員** 質問ですが、実施のときの の方法ですが、1 歳、2 歳、3 歳の時点でアンケートをとるとありますが、アンケートの対象はブックスタート・パックを配った家庭と配らない家庭、この両方にするのではないのですか。

**中央図書館次長** この辺ですが、主体は推進会議なので、詳しくは聞いてないのですが、おそらくアンケートを配った家庭と配らない家庭、両方を含んでいると理解しているのですが。

**鬼丸委員** パイロット・スタディだという意味であれば、まず 4 カ月健診でブックスタート・パックを配った家庭と、配らない家庭とでどう違うか。即座に違

うというというのも多分アンケート調査だと思うのです。その後配った家庭と配らない家庭で、成長していったらどう違うかというのを比較するつもりだとすれば、その辺は200から300の家庭に対してアンケート調査というのと、その上の600家庭に配っているのに、何でこういう数字になるのかと。

**中央図書館次長** 確かに300家庭に配付して、無配付家庭が300家庭、アンケート調査を行うのですが、回収がおそらく100%ではなからうというのがあるようです。600家庭全部に行うのは、かなりきついという、おそらくそういうことではないかと想像しているのです。

**中央図書館長** いわゆる追跡調査、言葉はあれですが。そういう流れだと思えます。

**教育長** やり方をうまくやらないと、無配付家庭については、パックを欲しいと。もらえないのに、もらったほうがいい結果が出て、もらえないのが悪い結果が出るのはみすみすわかっているではないかという感じで、そういうリアクションに対するフォローというのはどうなのでしょう。

**中央図書館長** そこがなかなか難しいところだと思います。だから一緒の家庭では、あなたには配ります、あなたには配りませんというのはいけないと思っっているのです。ですから時期をずらす。大体杉並で乳幼児が、年に3,000人ちょっといるんです。そうすると大体1カ月で300サンプル、300というのは1カ月ちょっとで取れるのです。ですから2カ月でたぶん分けてやらざるを得ないのではないかと思うのです。フォローアップにしても配らない人に参加をせがむのは出来ません。

**委員長** これ、調査するということ自体が、ブックスタートという事業が非常に人間が育っていく上に、有効だという、そういう前提があるわけでしょう。それがわかっていたら、健診に来た人たちは、皆やりたくなるのが人情ではないのでしょうか。

**中央図書館長** そのとおりだと思います。

**委員長** 無理やり私はやりませんという人がいればいいけれど。こういう機会を与えられたとしたら、私もやりたい、私もやってみたいというのが杉並区の乳幼児を持つ親御さんの気持ではないかと思いますが。何か2つの道をどっちの道を通っても、富士山の頂上に行かれるという、あなたがどちらの道を通るか、というのなら、これは調査ということも意味があるのだけれども。ブックスタ

ートがいいものだといギリスのバーミンガムでやって、いいことを知っていながら、私はやりませんという親を選ぶというのも、これはあるいは無理にあなたにはやりませんというわけには。これはどうなのでしょう。

**中央図書館次長** 確かにそうなのです。やり方についてかなり具体的に難しいということが話に出まして、はじめは保健センターがいくつかありますので、保健センターを分けて、こちらの保健センターではパックを配付し、こちらではアンケート調査だけに協力してもらおうというような分け方をしようと考えていたようです。ところが杉並区の中でも地域差というのがあるので、調査結果からいくと、地域差が出るとまずいということになりまして、おそらく今後、日にち、期間ですらしていくような形になるのではないかと、いまのところ思われます。この期間につきましては、パックを配付しますよと。その期間を過ぎたら今度は配付をしない家庭のご協力をお願いをする。時間差でやらざるを得ないのかなと、現在のところそういう状況になっております。

**鬼丸委員** 逆にしてもいいのではないですか。最初配らない家庭を調査をしてから。

**教育長** なるほど。

**大門職務代理者** ただ私、水を掛けるようなことを言って悪いのですが、ブックスタートはかなりの家庭でしていらっしゃると思うのです。パックをもらうかもらわないかにかかわらず。だからブックスタートをしているのとしていないのとの比較などというのは、ほとんど出来ないのだと思います。パックをもらうと、急に子どもが良くなるというのなら、それこそ子どもが生まれたら、皆パックを配らなければならない。だから水掛けして悪いのだけれども、何を本当に調べたいのか。そういうことをもう一遍よく考えて調査事項を決めて、調査方法も考えたほうがいいのではないですか。パックの有る無しでは、意味がないと私は思うのです。

**中央図書館長** パックその後の問題です。パックを配っただけで云々というのではなくて、そういうものをひとつのきっかけとして、どのようにしていくかという問題がいちばんのポイントだと思います。

**鬼丸委員** アンケートの中身が難しいと思うのです。これを機会に親子ともども、子どもは無理としても、本をいろいろあさってきて、しょっちゅう見るようになったかどうかがいちばん問題です。そうする家庭とそうしない家庭ですごく

差が出るという、その問題ではないでしょうか。

**中央図書館長** 基本的には「子ども読書年」推進会議が推進母体になっているのですが、やはりイギリスで一定の効果があるということが客観的に証明されていると。それをやはり日本の地域でやる場合に、やり方などもイギリスと同じでは駄目だろうと。やはりやり方を日本に合った方法を摸索したいというのもひとつです。一般論としては、確かに効果はあるだろうけれども、果たしてそれをある程度実証的なデータのもとで、裏付けを作りたいというようなこともあるようです。推進会議のもとにある大学のやはり調査機関が、大学の先生ですか、こういう方が参画しているようです。

**大門職務代理者** 私は孫がいるものですから、孫にどういう本が面白いか見るために、図書館の児童コーナーにときどき行くのです。お母さんたちとても熱心で、多いです。並んでいる本もなかなかいい本がある。子どもが這い回りながら出したり、引っ張ったりできるように、願わくはじゅうたんを敷いてもらったほうがいいのではないかなと思っています。

**中央図書館長** それは図書館としてもこの3月から赤ちゃん絵本のリスト、1つのアドバイス集と、こんな絵本はいかがでしょうかという冊子を作って、保健所等で現実に配っているのもあるのです。

**大門職務代理者** そうですね、そんなのを見たこともある。

**委員長** 要するに、この運動を杉並でも親御さんたちに是非取り入れてもらって、子どもの養育のひとつの方法としてというのが狙いなのでしょう。

**中央図書館長** 最終的には。

**委員長** そこでやったのとやらないのを比較するという調査は、何を目途としているのか。やればいいということは、もうイギリスでもわかっているというのですから。

**中央図書館次長** ちなみにアンケートの内容をお話したいと思います。乳児の読み聞かせに対する現況と親の考え方。大きくは育児不安やストレスと育児サポートの現状、地域とのつながり。もう1つは、ブックスタート・パックに関する質問。大きく分けますと、この3つになっております。乳児の読み聞かせに対する現況と、親の考えの中には、いつごろから読み聞かせをすると良いと思うかとか、どんな絵本の見方をしたいか。それはなぜかと。図書館、書店はいつから利用したいと思うかとか。絵本、テレビについて。このような内容にな

っております。ブックスタート・パックの中身に対する質問につきましては、ブックスタートへの感想とか、配付の仕方や説明内容、ブックスタートの効果、父親の読み聞かせ参加度、子どもの様子。このような内容がアンケートの中身のようでございます。

**委員長** いまの質問を聞くと、皆、ブックスタートした人たち、パックをもらった人たちの答えになるわけだね。もらわない人は。

**中央図書館次長** いや、必ずしもそうではないです。

**委員長** そうではないですか。

**丸田委員** まだいろいろこれから検討されるのでしょうか。やはりこれをやる意味、目的をもう少し明確にさせて、設問を作るといいと思うのです。最終的には、公がなぜこういったことに取り組んでいくのかと。それから中央図書館、図書館自体が地域に飛び込んでいくと。それから保健婦さんも抱き込んで、縦割りではなくて、横のつながりでやっていくという、その意味というのをもう少し浸透させて、啓発させるか。こういうアンケートをされる両方の人たち。そういったことから今後どのあたりまで、どのようにやったらいいのかとか。その辺の手法を開発することを、何かストーリーの中に組み入れられたほうがいいのかなど。意義があるのはわかっているのだから、先ほど館長がおっしゃったように日本的なやり方というのをどのようにしたらいいのかということ。そのあり方、その辺の的を射たほうがいい。

**中央図書館次長** 当初「子ども読書年」推進会議からこの依頼がありましたときに、もちろん図書館だけでは対応できませんので、保健衛生部とか、女性・児童部と三部で協議をいたしまして、こういうことになったわけです。この事業というかこの試行も含めて本格的に始めるのはもちろんのことなのですが、フォローアップの体制をいかに作っていくかということが、いちばんの基本になるのではないかと、大変なことだと思っております。それをどうやってやっていくかということは今後、三部で調整して、話しをしながら進めていきたいと思っております。

**委員長** やはり大事なことから、日本的なことと言うか、ことに杉並的なという、杉並のそういう方たちはどういうことか。やればいいということはわかっているのだけれども、もしもできないとしたら、その隘路はどういうことなのかということでも、聞けば話はわかるのだけれども。配る人と配らない人とを

作為的に作って、何かと。やはりここではもらないけれども、大門委員の話のように、親御さんやおじいさん、おばあさんが子どもを連れて行って、図書館であるとか、自分で買って来て、本人に。そういう人も多からうから出来にくい。ブックスタートというのはいいいいという事はわかっている。それが出来にくい、親の忙しさ、母親のお勤めの関係。そういうことで読み聞かせがなかなか、こういうことで出来ないのだとか。そういうことを杉並として洗い出したほうがより有効のような気がします。これは感想だから。皆さんのほうでいろいろ検討されてやっていただければいいと思います。ひとつそこらを我々の疑問として、提出したということで受け取ってください。

それでは庶務課長、次回の予定をお願いします。

**庶務課長** 次回は10月18日(水)、10時から。10月11日から13日まで視察ということになっておりますので、その後に日程を変更いたしました。

**委員長** 18日の10時ですね。

**庶務課長** はい。

**委員長** 直接、学校訪問はないのですね。

**庶務課長** ないです。次回の18日の部分は、11月議会との関係等がございますので、教育長の意見聴取の関係ですとか、先ほどご報告した行革、そういったことを議題にして予定しています。

**委員長** そうすると学校訪問がなければ、教育委員会は午後2時からということが大体常識になっていますが、それが午後2時でないというのは、区議会が関係しているということですか。

**庶務課長** ほかのスケジュールとの関係がありますので。

**委員長** そうということで10時ということですか。それでは次回は10月18日(水)午前10時だそうです。それでは今日の教育委員会はこれで閉会にいたします。ご苦労さまでした。